

令和6年度（2024年度）学校評価報告書

園名	宝塚市立安倉幼稚園	園長名	赤松 明子
----	-----------	-----	-------

1 学校教育目標

心身ともにたくましい幼児の育成

2 重点目標

○ 豊かな経験が広がる保育の充実をめざす ○ 家庭・地域と共に育ち合う幼稚園づくりをめざす ○ 心豊かな教師集団づくりを進め、教師の資質向上をめざす
--

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	開かれた幼稚園づくり	○ 家庭や地域への情報発信を行い、地域参加の教育活動を推進する。	B	○ 園からの配布物や降園時の「おはなしタイム」、コドモンのドキュメンテーション、HP等を通し、園の取り組みや幼児の育ちについての発信に努めた。しかし、ドキュメンテーションやHPの更新頻度をよりあげていくことが必要である。また、個人情報保護について保護者と考えていかななくてはならない。 ○ オープンスクールなどの行事を開催し、子どもの姿から園の教育について理解いただいた。	・ コドモンやHPの発信も必要ではあるが、まずは実際の幼児の姿や保育を見ることが大切である。またその際は、保護者の方には子どもたちをレンズ越しではなく、温かいまなざしで見てほしい。 ・ 個人情報保護については、ルールを決め、保護者が守れるように啓発していくことが必要である。 ・ 様々な行事で園の様子・幼児の様子を知ることができた。
		○ 幼児の体験が豊かに広がるように保護者や地域のよさを取り入れた保育を進める。	B	○ 安倉音頭や栽培活動、絵本の貸出等、保護者や地域の方の協力を得て、保育の中に取り入れ、幼児の体験を広げることができた。次年度も年間を通して取り組めるよう計画的に進めていく。	・ 幼稚園で安倉音頭に取り組むことで、幼児が親しみをもち、地域の祭りや運動会への参加の仕方が変わってくるので引き続き取り組んでいってほしい。
	危機管理体制の整備	○ 危機管理意識をもち、子どもたちの衛生・安全管理に努める。	B	○ 避難訓練などを定期的に行うことで、幼児自身が自分の命を守る教育に努めた。今後、様々な想定での訓練を実施していく必要がある。 ○ 毎日・毎月の安全点検、木々や草花の管理などを行い衛生・安全管理に努めているが、園庭が広く、危険箇所の見落としなどがあった。今後もより危機管理意識をもち、幼児の衛生・安全管理に努めていく。 ○ 通園については、交通ルールやマナーなど手紙や降園指導で伝えていくようにした。安全への意識が継続できるよう、啓発を続けていく必要がある。	・ 園庭が広く、管理が難しいが、日々点検が行われていることはよい。引き続き、危機管理意識をもって幼児の衛生・安全管理に努めていってほしい。 ・ 危機管理は、何が起るかかわからないので、これでよしとは言いきれない。定期的に活動や訓練をしていくことが大切である。
		○ 幼児の成長を中心に据え、親と子の育ちの場としての役割を果たす。	B	○ おはなしタイムや個人懇談、登降園後や園庭開放時に園での様子や育ちについて伝え、保護者の悩みなどに耳を傾け、幼児のためによりよい方法を考え、寄り添うように心掛けた。しかし、園に話しにくいと感じている保護者の声があったことから、一人一人の保護者に丁寧に関わり、寄り添えるように努めていく必要がある。	・ 職員に積極的に話をしていく保護者とそうでない保護者とがいるので、連絡帳やコドモンを活用するなど連携のとり方を工夫していくとよい。
	子育て支援の推進	○ 未就園児親子への支援を行うための保育の場を提供する。	A	○ 未就園児教室を定期的を実施することで、入園前の幼児や保護者が園に親しみを感じたり、子育ての悩みに耳を傾けたりした。引き続き、未就園児親子の子育て支援となるように努めていく。	・ 毎月の未就園児教室はもちろんのこと、運動会の未就園児のプログラムもよかった。 ・ 安倉児童館の出前保育は安倉ならではの、引き続き、連携しながら進めていってほしい。
		○ 教師間で、幼児の育ちについて話し合う機会をもつと共に、研修での学びを通して幼児理解に努める。	B	○ 教師が悩んだ時にはすぐに報告し、担任と管理職が考え合い、早期解決に努めた。しかし、職員全員での共有が難しいことがあった。職員全員で話し合う時間の確保が難しい中においても共有すべきことはしていくことが大切である。	・ 預かり保育や業務等があり、共有が難しいこともあるかと思うが、工夫し行う必要がある。職員全員で考えたいと強く思う気持ちを聞き、熱心な職員が多いと感じた。
	教職員の資質向上				

教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	○ 幼児が主体的に根気強く遊ぶ保育を実施し、環境の構成や援助、保育内容を工夫する。	B	○ 子どもの実態を把握し、その時々に応じた配慮や保育内容の工夫に努めた。また、『あきらめずにやり抜く心をはぐくむ』を本園の研究主題サブテーマにあげ、職員が意識しながら援助や言葉掛けを行った。 ○ チャレンジタイムでは、幼児一人一人が意欲的に取り組めるようにした。運動会や竹馬・パカポコ大会などで、保護者に幼児の頑張りが伝わる機会をつくり、幼児に達成感を抱かせ、自信につながった。	・ 昨今、「できるだけをさせる」「今の力を発揮する」という考えが多い中、「やるべきことは最後までやりきらせる」「完璧でなくてもよいが最後まで頑張る」など少しハードルを上げて挑戦することは大切であるので引き続き、取り組んでほしい。
	基本的な生活習慣の育成及び道徳性の芽生えの育成	○ 挨拶や身辺整理、手洗い等、園生活を通して、基本的な生活習慣を育成する。	B	○ 挨拶等、教師自身が手本となり、基本的な生活習慣が定着するように繰り返し指導を行った。しかし、園生活に慣れてくると、身に付いていたことが抜けてしまうこともあるので、再度確認し、幼児自身が基本的な生活習慣の大切さを意識しながら生活できるようにしていきたい。	・ 基本手生活習慣は園と保護者とが連携をとり、協力していかないと身に付かない。また、衛生面の指導等では、養護教諭の力も大切であり、本園のような兼務の場合は毎日、丁寧にできないこともあるのではないかな。
		○ 葛藤やトラブルを乗り越える体験ができるような場や機会を逃さず、諦めない心の育成に努める。	B	○ 保育の中で、自分の思いを言葉で伝えたり友達の思いを聞いたりすることを大切にした。特にトラブルが起こった際には、自分で考えたり、友達同士で考え合ったりして乗り越える体験ができるように心掛けた。 ○ トラブルや葛藤の場面では、見守ったり、個別に声を掛けたりする等、その場に応じて幼児の心に寄り添った。5歳児においては、学級全体で話し合う機会をつくり、学級全体の問題として話し合い考え合うように努めた。	・ 実際のトラブルから話し合うことも大切であるが、絵本等の教材を活用して、お話を通して学ぶこともしていくとよい。
	校種間連携	○ 子どもの学びや育ちの連続性を大切にした保幼小連携を図る。 ○ 保・幼・小・中・養護学校と実態や課題を共有し、地域の子どもを育てるという意識をもちながら連携を進める。	A	○ 管理職同士から始め、担任同士での連携ができるようにしたことで、気軽に声を掛け合い、交流し合うことができた。 ○ 園から事前に遊ぶ内容・本時のねらいなどを小学校に伝えることで児童が園児に対しての関わり方や遊び方等についてのめあてをもち、関りを工夫している様子が伺えた。交流後は1年生からのメッセージが届き、園児が自分の遊びを評価し、自信につながる機会となった。 ○ 次年度は隣接校以外の小学校との連携を図っていく。 ○ 管理職連携会議や担任間での連携会議において、それぞれに子どもや地域の実態や課題を確認したことを園内で口頭や文書で周知するが、共有ができていないように感じる。職員全員が安倉中学校区のめざす子ども像を意識し取り組んでいく必要がある。	・ 引き続き、連携を図ってほしい。園は評価をBとしているが、Aに変更した方がよい。 ・ 安倉中学校区は、連携が取れていると感じるが、隣接校以外は難しいということを知ったため、工夫が必要である。
	人権教育	○ 教師の人権意識を高め、人権尊重の姿で保育に取り組む。	B	○ 人権ブロック研究会で公開保育をしたこともあり、各学級の課題から教材をつくり、考え合う機会をもった。教師においては研修会に参加し、学ぶことで、自身の人権意識をもてるように努めた。	・ 人権教育については、園だけでなく、取り組むのではなく、保護者や地域も意識をもって取り組んでいかななくてはならない。
	特別支援教育	○ 幼児一人一人の課題を明確にし、教職員全員で共通理解を図り、個々の発達に適した指導や支援を工夫する。	B	○ 個別指導計画に基づいて、一人一人の力を伸ばできるように、誰もが同じ指導ができるように努めた。しかし、個別指導計画を検討する時間が少なかったことから、次年度はまずは担任・加配・介助員が協議し作成を進め、その後、職員全員で話し合えるようにしていく。	・ 一人一人幼児の発達や課題に寄り添い、丁寧な支援ができていく。

独自項目	伝統教育	○ 『あくらっこ太鼓』や『安倉音頭』の継承と共に子どもたちの伝統文化や地域への親しみや意欲を育てる。	A	○ 『あくらっこ太鼓』は運動会やオープンスクールなどの機会に、場を設けて保護者や地域の方に発表している。また地域の方に『安倉音頭』を教えていただく機会や親子で踊る機会をつくり、安倉地域への親しみがもてるように努めている。今後も『あくらっこ太鼓』を安倉幼稚園の特色・伝統として大切にし、継承していきたい。	・ 伝統は大切なので、引き続き、取り組んでいってほしい。
------	------	--	---	---	------------------------------

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 行事ごとのアンケートや日々、保護者の思いや願いを聞きながら実施しているので、評価の方法として適切である。

6 総合的な学校関係者評価

- 職員が幼児一人一人に丁寧に関わって保育に取り組んでいる。
- 忙しい中、職員が協力して取り組んでいる。

7 市教育委員会等への要望

- 今年度は養護助教諭が2園勤務だったため、保護者も不安な部分があった。来年度の専任配置となるようにしてほしい。
- 今年度は、職員の顔ぶれが大きく変わり、新しく異動してきた職員が多く、新学期当初はバタバタしているように感じた。職員の異動について配慮してほしい。

- (1) 評価の観点及び評価項目設定については、各園の実情に応じて、また各園独自の言葉で設定・作成してください。
- (2) 幼稚園が「1」「2」「3」をとりまとめて学校関係者評価委員会で説明し、学校関係者評価委員会は、評価の結果を「4」「5」「6」に簡潔にまとめ、園は学校関係者評価の結果を踏まえて報告書を作成し報告してください。また結果の公表に努めてください。